

Keyword Prediction of carcinogenesis

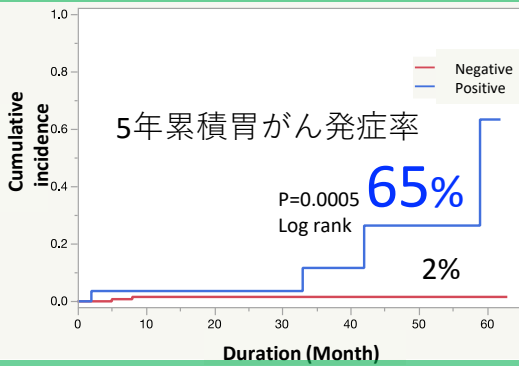
発がん予測技術のキット化/
Development of a kit for carcinogenesis prediction technology

がん特異的共通因子から悪性形質獲得前から検出できるものを選定し、その因子(群)の検出によりがんの発症を予測する技術

実施例：
本検出技術を用いた非胃がん患者の将来の発がん率

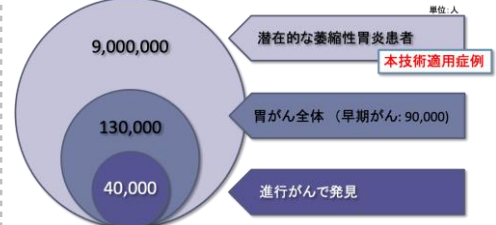
	Total No. n=207	Patients No. occurring gastric cancer		Incidence (%)	ODDs rate	P value Fisher's exact test
		Positive	Negative			
Our technology						
Positive	28	4	24	14.29	12.79	0.0034
Negative	179	2	177	1.12	1.00	
H. pylori infection: RUT						
Positive	166	5	161	3.01	2.70	1.00
Negative	41	1	40	2.44	2.18	

本技術陽性症例における有病率は陰性症例の14倍であり、ピロリ感染検査と比較しても感度特異度ともに優位であった。



上記データに時間補正を加えたデータセットでは、本技術陽性症例の5年累積胃癌発症率は65%であった。当該データから、本技術陽性症例は、3,4,5年後に胃がんを発症するリスクが高いことが示された。その一方、同陰性症例では、フォローが推奨される検査後1年以内の胃がん発症は認められたが以降の胃癌発症は認められなかった。

本邦における胃がん患者内訳



対象疾患：萎縮性胃炎

市場規模：900億円
(900万人 x 検査費用 1万円想定)

臨床的意義：
本検査陽性症例をタイトフォローアップ

↓

進行がんの減少(早期がんで検出)

↓

胃がん全体の予後の改善

Pros/セールスポイント

- 今までのリスク診断より高精度な発症予測診断。
- アンメットニーズへのアプローチによる保険適用検査へ。
- 他の臓器がんへの適用拡大。
- 知的財産情報：特願2022-140097、権利者：北里研究所。

Publications

- 本データ (Prospective study)について論文投稿準備中

Purpose/今回の商談目的

- 協業企業の募集：検出技術の規格化 (キット化)、品質性能試験、PMDA相談、薬事申請、保険申請を実施いただける企業。(臨床性能試験は北里研究所が主導で実施する予定です。)